

中学年・高学年の 授業形態の例

国語

○授業をつくるうえでは、「単元計画」が中心となる。

○物語文・説明文・詩など

1. 自習学習(2～3H)

- ・新しい漢字の学習——筆順・読み・熟語（漢字ドリルを利用）
- ・むずかしい言葉の意味調べ（全体で、グループで、個人で）
- ・本読み——どんなことを学習したいか考えさせる。5回程度。

2. その単元の最終目標（単元を貫く言語活動）を最初に提示して、授業のねらいをはっきりさせる。

- ・その単元の最後に示してあることが多い。

3. その目的を達成するためにどんなことを学習したいか子供から意見を聞いて学習計画を立てる。

- ・指導内容の不足分は、教師側から提案して、学習計画に入れる。

4. 学習計画に従って授業を進めていく。

5. 物語文・説明文では、

- ①あらすじをつかむ。
- ②意味段落に分ける。
- ③小見出し・キャッチコピーを考える。
- ④テーマをいくつか決め、そのことについて深く考察する。

- ・会話文を取り上げる。

- ・主人公の行動を取り上げる。 など

※教材を縦割に見るより、横割りに見ていく。

○「書く」「話す」「聞く」

- ・教科書に取り上げられている内容をそのままやればいい。
- ・実践を学校生活の中でやれるものは、そちらへまわしていく。
- ・「話型」「話す順序」を獲得させる。（ストラテジー）

○作文その他表現

- ・たくさんのねらいがあるが、それらをすべて達成するのはむりである。
1つに絞るといい。次の指導では、ねらいを替える。

- ・例えば、作文指導の場合

書く内容、書き方等指導したいポイントを決めて、指導に当たる。

「うれしかったことを書こう。」「うれしかったことから書き始めよう。」

「会話の部分からはじめよう。」

- ・例えば、詩を書く場合

いろいろなたとえを使って詩を書こう。

→自分独特なたとえがよい。

→そのたとえが、読み手にわかることが重要。

※個性的な独自の表現がいいが、読み手にわかることが、重要である。

○漢字・文法

- ・覚えさせるしかない。
- ・ゲームとか遊びを入れて指導するとよいが、それが中心になってしまっは意味がない。
- ・百字の練習は、しないよりはましだけれど、あまり効果は期待できない。毎日漢字テストをやる方が効果がある。
- ・漢字のテストには、△を！（ちょっと間違えている。×をするには忍びない。だから△だ。）
△をつければ、子どもが、間違いに気づくことができる。

○書写

- ・指導するポイントを決めて、「今日は、『止め』をみるからね。」というように児童に示して、指導に当たる。
- ・「〇〇な気持ちが伝わるような字にしよう。」というようなことを付け加えてもよい。
- ・全体指導の後、個別指導。
- ・自己評価できることが重要である。
はじめ書いた字と授業の終わりにかいた字と比較させるなど。
- ・指導した事柄で評価を出す。
- ・できた作品に赤で訂正や、○をつけるのは、好ましくない。（指導過程では必要である。）

社会

○問題解決学習：仮説検証型・予想確認型

- ①導入：今日の課題に関係のある写真や絵を見せて、興味を持たせ、課題をしめす。
- ②課題の設定
～について調べ、～について考えよう。
予想を立てる。
- ③資料の提供（教科書・資料集・独自資料）
- ④調べてほしい内容について、項目を示し、調べさせる。（自力解決）
- ⑤発表：全体でまとめる。
- ⑥調べた内容を根拠に考える内容について自分の考えをかく。
- ⑦交流：意見交換。結論を出す必要のないものが多い。
- ⑧今日の感想、振り返り。

※ノートの書き方を統一するか、ワークシートがよい。

※毎時間のノートを指導者が、かいてから授業をする。

算数

○問題把握→自力解決→学びあい→まとめ→振り返り

- ・授業の流れの中心は、「思考」である。

○「まとめ」・・・過程（見方や考え方）と結果でまとめる。

↓

一般化・拡張・演習・練習・定着をはかる。

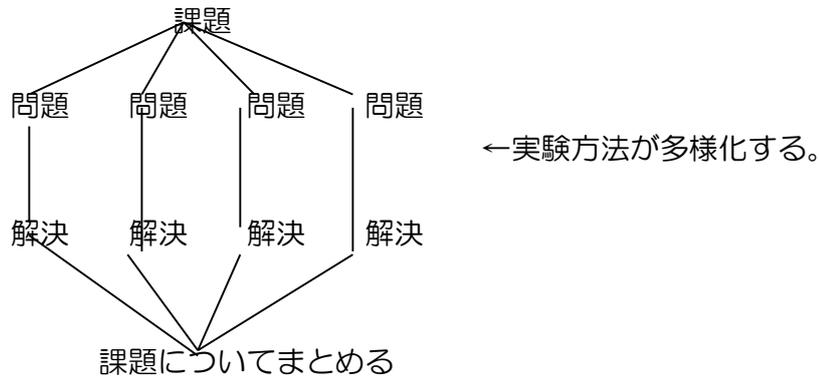
○単元計画も大事ではあるが、毎時間の授業の組み立てが、中心になる。

※算数は、「わかっている子」と「わからない子」が同居する。1時間の中で「わかっている子」が、考える時間、「わからない子」が、考える時間をつくるのが大切。

理科

○**仮説検証型授業**・定性実験・定量実験・条件統一

○展開1



○展開2

課題→問題→解決→新たな問題→解決・・・・・・・・

○ノート指導

ノートを横に使う。または、ノートを見開きで使う。

見開き2ページで1つの実験が完結するように指導する。(ワークシートでもよい。)

- | |
|--|
| <ol style="list-style-type: none">1. 日時・天気<ul style="list-style-type: none">・実験する日と天気できれば気温を書かせるとよい。2. 実験する事柄<ul style="list-style-type: none">・できるだけ短い文章で、具体的に書く。3. 予想<ul style="list-style-type: none">・根拠をもった予想を立てる。・意見交換 |
| <ol style="list-style-type: none">4. 図と説明<ul style="list-style-type: none">・予想(仮説)や実験方法や注意などを書く。・図などをいれてわかり易くする。5. 結果<ul style="list-style-type: none">・自分たちの結果。・発表後話し合っ、問題があれば、修正する。・修正した場合は、どこが問題であったか書く。5. わかったこと<ul style="list-style-type: none">・実験結果からわかることをかく。(各自でまとめる。教師主導でまとめる。)・知識理解等 指導者が、指導すべき内容もここにまとめる。 |

※**実験ノートを指導者が、かいてから授業をする。**

※**子どもには、必ず根拠をもった予想(仮説)を立てさせること。**

子どもの経験が少ない教材は、必ず最初に「遊び」が入っている。その遊びの経験から次の実験の予想を立てさせる。

道徳

1. 教材を読む。
2. 課題を与える。——はっきりとしていてわかりやすいもの。
○×課題がいい。議論しやすい。
「〇〇君の行動は、正しかったのか？」
3. 話し合い——フリートーク・ディベート
結論は、出さない。
4. 話し合った後で、自分の思いを作文させる。(原稿用紙1枚程度)
5. 評価をして、次の時間によい作文を本人に読ませる。
※よい作文：人の意見を聞いて自分の考えをしっかりとまとめているもの。
※このパターンでやると、学級の問題、トラブル等の解決に役立つ。